

日本鉄鋼協会記事

第 66 回秋季大会

第 66 回大会は、10 月 18 日、19 日、20 日の 3 日間、名古屋市において開催され、次いで 21 日には市内および近郊の工場見学会が行なわれた。大会諸行事の実施状況次の通り。

I. 学術講演会

18 日から 20 日まで名古屋市千種区不老町名古屋大学経済学部および法学部において行なわれた。第 1 日の 18 日は、9 時 10 分開会。まず参会者一同第 1 会場に集合、初めに内川大会実行委員長(東海支部長)から歓迎の挨拶が述べられ、次いで三島本会会長の開会の挨拶があつて開会の式が閉じられた。それぞれの講演は諸行事の都合上 19 日の午後 1 時から 20 日に亘り、第 1 会場—製鉄、第 2 会場—製鉄および分析、第 3 会場—転炉、平炉、電気炉、第 4 会場—製鋼造塊、製鋼基礎、第 5 会場—性質、第 6 会場—性質、第 7 会場—性質、分析、加工の 7 会場において行なわれた。この大会における研究発表の講演数は 201 件の多数を算し、聴講者の数また合計 1000 名を超え、甚だ盛会であつた。

II. 臨時総会

18 日 9 時 20 分第 1 会場(経済学部第 2 講義室)において開催。三島会長議長となり、つぎの議案について伊木副会長より説明の後審議を進め、満場一致原案通り可決して 9 時 50 分閉会した。

議案 定款中一部変更の件

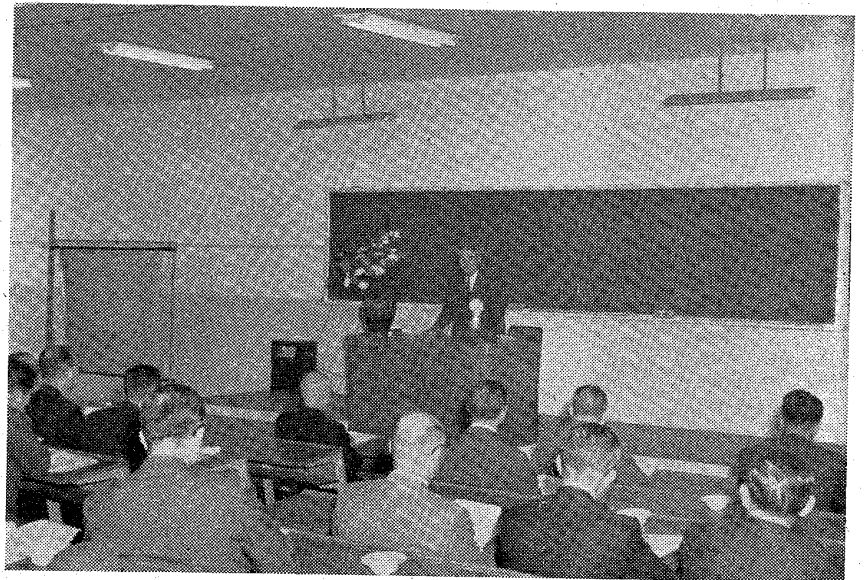
社団法人日本鉄鋼協会定款中次の通り一部変更する。

1. 第 2 条(事務所に関する規定)中「東京都中央区宝町 2 丁目 4 番地」とあるを「東京都千代田区丸の内 1 丁目 1 番地」に変える。
2. 第 11 条(正会員会費に関する規定)中「年会費 1,500 円」とあるを「年会費 2,000 円」に変える。
3. 第 12 条(学生会員会費に関する規定)中「年会費 1,000 円」とあるを「年会費 1,200 円」に変える。
4. 第 13 条(外国会員会費に関する規定)中「年会費 2,880 円」とあるを「年会費 3,600 円」に変える。
5. 付則に次の 1 項を加える。

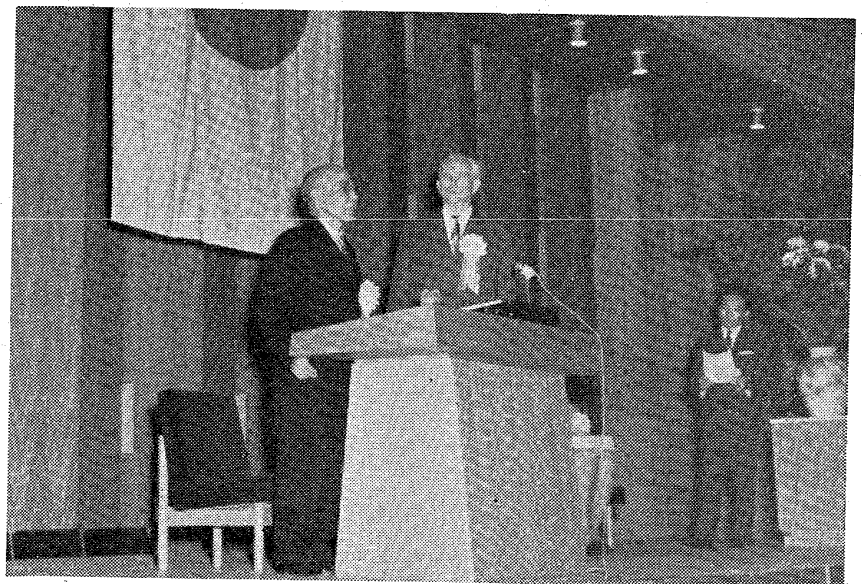
第 11 条、第 12 条および第 13 条の変更定款は、昭和 39 年 1 月 1 日から適用する。

III. 名誉会員推挙式、特別講演会

18 日午前 10 時から名古屋大学豊田講堂において日本金属学会と共同の下に開催、今回本会より名誉会員に推挙、日本金属学会より名誉員に推戴することになったヴェルナー・ケスター博士(西独マックス・プランク金属研究所長)の推挙(戴)式を行なつた。初めに三島会長よりケスター博士の紹介があり、次いで佐藤金属学会会長より名誉員推戴状ならびに名誉員章を、三島本会々長より名誉会員推挙状ならびに名誉会員章をそれぞれ贈呈して式を終つた。



内川大会実行委員長の開会挨拶



名誉会員推挙式の三島会長とケスター博士

次に特別講演会に移り、ケスター博士より「金属固溶体の内部微細構造に関する研究方法」と題する講演（通称東北大学金属材料研究所竹内庸君）が行なわれた。終つて佐藤金属学会々長より謝辞ならびに記念品の贈呈があり、散会した。

IV. パネル討論会

18日午後1時半から名古屋大学豊田講堂において「純酸素転炉による高炭素鋼の溶製について」を主題とするパネル討論会が開催された。初めに座長土居襄君より挨拶があり、次いで次の講演が行なわれた。

純酸素転炉概論（特に高炭素鋼の

純酸素転炉による製造について）

土居 襄 君

純酸素転炉における高炭素鋼の
溶製について

中谷 元彦 君

純酸素転炉による高炭素鋼の溶製

光島 昭三 君

純酸素転炉による高炭素鋼の製造

白井 弘治 君

純酸素転炉による高炭素鋼の吹錬

（主として脱磷について）

板岡 隆 君

講演終了の後、討論参加者荒木透君、小池伸吉君、古茂田敬一君、佐野幸吉君、不破祐君、深尾雄四郎君、松下幸雄君、松永昭君、山本全作君、若林一男君と各講演者の間に熱心なる質疑応答ならびに討論が行なわれ午後5時半会を閉じた。

V. 懇親会

18日午後6時から、名古屋駅前ホテル・ニューナゴヤにおいて日本金属学会と合同で開催された。来賓としてケスター博士夫妻も出席され、参加者200名を超えて甚だ盛況を呈した。初めに内川大会実行委員長

より開会の挨拶があり、ついで三島鉄鋼協会々長、佐藤金属学会々長よりそれぞれ挨拶があり、またケスター博士からも一場の挨拶があつて開宴、一同卓を囲んで歓談を交わして、懇親を重ね、終りに両会の万歳を三唱の後和気霽々の裡に午後8時散会した。

VI. 第2回共同研究会報告講演会

鉄鋼技術共同研究会が本会に移行してより後の第2回報告講演会が19日午前9時から第1会場において開催された。初めに共同研究会幹事長山岡武君より開会の挨拶があり、引き続き次の講演が行なわれた。

近年の鋼塊鑄型の進歩

製鋼部会鑄型分科会主査 岩村 英郎 君

中小形圧延工場における技術の進歩

中小形分科会前主査 桂 寛一郎 君

鉄鋼業における秤量の展望と問題点

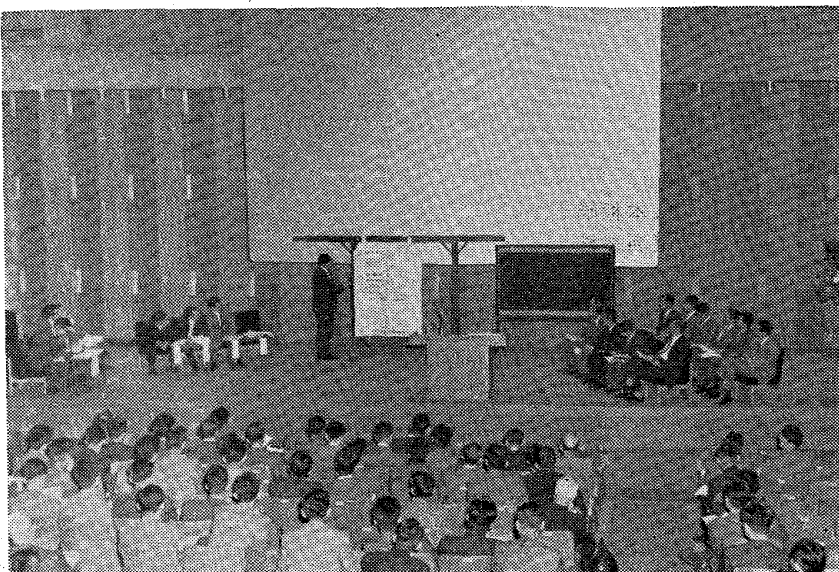
計測部会秤量分科会主査 五十部 賢次郎 君

VII. 東海支部懇談会

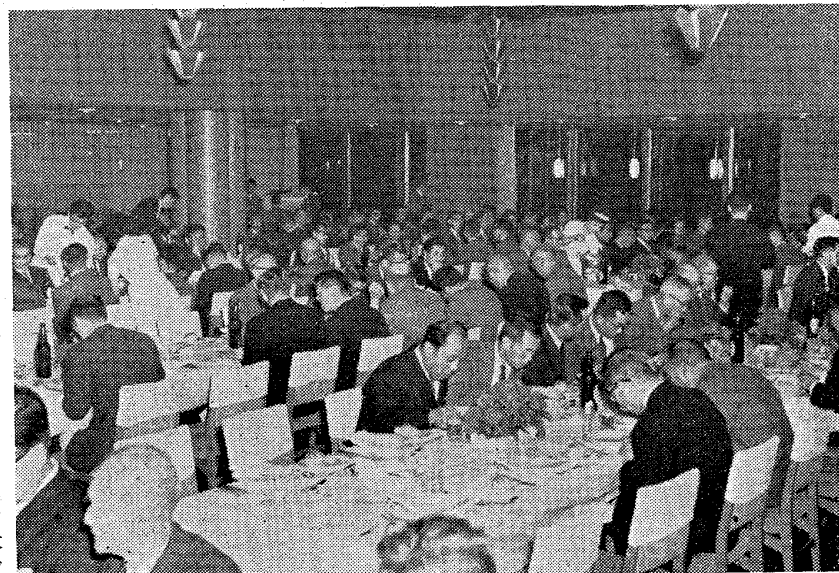
19日午後6時から名古屋共済会館において開催。東海支部から内川支部長および役員諸氏11名。本部から伊木副会長および役員、職員12名出席して、協会の事業運営特に会誌の編集、講演会の開催、海外との技術交流などについて、また支部よりの要望事項などについて意見の交換を行ない、種々懇談を重ねて午後8時散会した。

VIII. 工場見学会

本会ならびに日本金属学会々員約650名は次の各班に分れ、19日および21日の両日、名古屋市内および近郊の諸工場の見学および附近の観光を実施した。今回は特に大会実行委員会側の要望に応じ、多数の夫人方も参加し色彩を添えたことは特記すべきことである。



パネル討論会会場



懇親会会場

- 特別班 日本陶器, 渡玉毛織, 安藤七宝店 (夫人優先)
 第1班 新三菱重工業岩塚工場, 中部鋼板中川工場, 新三菱重工業大江工場
 第2班 日本車輛製造, 住友化学工業名古屋製造所, 大同製鋼星崎工場
 第3班 新三菱重工業小牧工場, 萱場工場岐阜工場, 日本ライン下り
 第4班 岐阜精機, 関市内刃物工場
 第5班 東洋ベアリング製造桑名工場, 日立金属工業桑名工場, 千本松原 (薩摩義士史蹟)
 第6班 日本板硝子四日市工場, 鈴鹿サーキット, 本田技研工業鈴鹿製造所
 第7班 東海製鉄, 大同製鋼知多工場, 竹春植物園
 第8班 愛知製鋼知多工場, 川崎製鉄知多工場, 鶴ノ池
 第9班 豊田自動織機, トヨタ自動車工業, 愛知用水調整池
 第10班 犬山公園, 丸山ダム, 日本ライン下り (夫人優先)

第7回理事会 日時: 10月9日 17:00 開会. 場所: 協会々議室. 出席者: 三島会長ほか 25 名.

報告事項 I. 鉄鋼基礎研究につき日本金属学会より共同研究申入れの件. II. 第8回編集委員会に関する件.
 III. 第7回企画委員会に関する件. IV. 第6回研究委員会に関する件. V. 第1回鉄鋼生産設備能力調査委員会に関する件.
 VI. 訪英視察団準備に関する件. VII. クリーブ研究組合に関する件. VIII. 石炭利用研究に関する件.

協議事項 I. 昭和38年度朝日賞受賞候補者推薦の件. II. 第10回大河内賞受賞候補者推薦の件. III. 9月中入退会その他会員異動の件. IV. 9月中収支決算に関する件.

第8回編集委員会 日時: 10月2日 17:00 開会. 場所: 協会々議室. 出席者: 佐藤理事ほか 22 名.

報告事項 I. 会誌第9号 (製鉄部会報告書), 第10号 (9月号) の完成および第11号 (10月号) 完成予定について.
 II. Overseas Vol. III. No.3 完成について. III. 会誌第12号 (11月号) 掲載論文の変更について.

協議事項 I. 会誌第9号および第10号の講評. II. 寄稿論文の審査. III. 会誌第50年第1号 (39年1月号) 掲載論文の選定. IV. 寄稿規程の改正について. V. 会誌第41年~第50年の索引編集について. VI. 翻訳図書について.
 VII. 日本機械学会賞推薦依頼について.

第9回編集委員会 日時: 11月6日 17:00 開会. 場所: 協会々議室. 出席者: 佐藤理事ほか 21 名.

報告事項 I. 会誌第9号 (製鉄部会報告書) の別刷「各製鉄所における製鉄設備の展望」, および第11号 (10月号) 完成並びに第12号 (11月号) 完成予定について. II. 第50年第1号論文追加掲載について.

協議事項 I. 第11号 (10月号) の講評. II. 寄稿論文の審査. III. 第50年第2号 (月2号) 掲載論文の選定.

第7回企画委員会 日時: 10月8日午後 17:00 開会. 場所: 協会々議室. 出席者: 伊木副会長ほか 14 名.

報告事項 I. 第1回鉄鋼生産設備能力調査委員会の件. II. 鉄鋼基礎研究につき日本金属学会より共同研究申入れの件. III. 規格について鉄鋼連盟と打合せの件. IV. 訪英視察団準備に関する件. V. 50周年記念事業準備委員会に関する件. VI. クリーブ研究組合に関する件.

協議事項 I. 昭和38年度朝日賞候補者推薦の件. II. 第4回東洋レーヨン科学技術賞候補者および科学技術研究助成金候補者推薦の件. III. 第10回大河内賞受賞候補者推薦の件. IV. 今後の金属学会, 学振との関係について.

第6回研究委員会 日時: 10月7日 16:00 開会. 場所: 協会々議室. 出席者: 村田理事ほか 15 名.

報告事項 I. 鉄鋼基礎研究につき日本金属学会より申入れの件. II. 規格について日本鉄鋼連盟と打合せの件.

協議事項 I. 基礎研究のための組織運営および研究テーマについて. II. 関連産業学協会との共同研究について.
 III. プラント・エンジニアリングについて. IV. 第9回金属材料の強度と疲労シンポジウム開催の件.

鉄鋼二次製品生産設備調査完了 日本機械工業連合会より, 昨37年10月26日付で機械素材工業の実態調査の依頼をうけ, 通産省重工業局, 通産省官房調査統計部および鉄鋼製品団体協会の協力を得て, 機械素材工業生産設備調査委員会を設け, 22部会に分けて作業を進めていたが, さる6月末調査を終り, その成果を取り纏めて「機械工業の実態調査報告書—鉄鋼二次製品生産設備の現況」を作成, 日本機械工業連合会に報告を完了した.

「各製鉄所における製鉄設備の展望」の発行 さきに共同研究会製鉄部会の研究成果を取りまとめ, 「製鉄部会報告書—製鉄技術の進歩」と題し, 会誌第9号として発行, 会員一般に配布したが, そのほかに「各製鉄所における製鉄設備の展望」を別冊として発行, 希望者に有償頒布することとした. (頒布価格 1000円, 送料とも)

訪英鉄鋼視察団員の決定 かねて英国鉄鋼協会よりの招請に応じ, 明春本会より英国鉄鋼視察団を派遣することになりその準備を進めていたが, このたびその団長および団員を次の通り決定した.

- 団 長 湯川 正夫 (八幡製鉄副社長)
 副団長 芹沢 正雄 (富士製鉄取締役技術開発部長)
 団 員 武田 喜三 (八幡製鉄取締役計画部長)
 深堀 佐市 (日本鋼管鶴見製鉄所副所長)
 吉田 浩 (川崎製鉄千葉製鉄所副工場長)

- 高 椋 正雄 (住友金属工業和歌山製鉄所副所長)
- 浅 田 幸吉 (神戸製鋼所神戸工場副工場長)
- 吉 崎 鴻造 (東洋鋼板常務取締役)
- 小野寺真作 (日本製鋼所室蘭製作所研究所課長)
- 吉 谷 豊 (富士製鉄技術開発部調整課付)
- 丸 正 巳 (八幡製鉄市場部副長)
- 荒 木 透 (金属材料技術研究所製造冶金研究部長)
- 木 下 亨 (通産省重工業局製鉄課長)
- 奥 村 虎雄 (日本鉄鋼連盟調査局長)
- 田畑新太郎 (日本鉄鋼協会専務理事)
- 三 井 太佑 (八幡製鉄技術開発部副長)
- 梅 根 英二 (富士製鉄技術開発部調整課長)

支 部 記 事

北 陸 支 部

渡辺記念講演会 9月28日 10:30~15:40 高岡市古定塚富山大学工学部において開催された。講演題目および講演者次の通り。

- 1. 鉄鋼製錬の物理化学的研究 東北大学教授 工博 三本木貢治
- 2. 上吹転炉について 八幡製鉄取締役計画部長 工博 武田 喜三
- 3. シューマンの方法による FeO-CaO-SiO₂ 三元系スラグの SiO₂ および CaO の活量について 京都大学教授 工博 盛 利貞

関 西 支 部

特別講演会 10月11日 14:00 より大阪大学工学部メモリアル・ホールにおいて開催。次の講演を行なった。

- 1. マックス・プランク金属研究所の概略と研究状況
- 2. 鋼合金多結晶における降服点について 西独マックスプランク金属研究所長 WERNER KÖSTER

関西鉄鋼技術研究会製鋼研究会 10月4日 13:00 より富士製鉄株式会社広畑製鉄所において開催、次の講演が行なわれた後、参加者一同広畑製鉄所を見学した。

- 1. 製鋼用スラグについて 大阪大学工学部助教授 荻野 和巳
- 2. 溶融鋼滓中の水素に関する 2, 3 の研究 川崎製鉄技術研究所 大井 浩

新 入 会 会 員 氏 名

(昭和 38 年 9 月 1 日 ~ 9 月 30 日)

正 会 員				確 井 信			日新製鋼(株)周南地区研究所	
伊 藤 昭 典	八幡製鉄(株)八幡製鉄所技術研究所	遠 藤 捷 爾	〃	〃	〃	〃	〃	
草 野 英	〃	河 野 通 義	〃	〃	〃	〃	〃	
中 村 安 正	〃	佐 藤 隆 策	〃	〃	〃	〃	〃	
原 田 稔 博	〃	角 田 清 人	〃	〃	〃	〃	〃	
福 田 正 邦	〃	中 井 鉄 一	〃	〃	〃	〃	〃	
加 藤 邦 宏	〃	竹 内 紀 政	〃	〃	〃	〃	〃 吳工場	
平 原 博 五	〃	津 金 不 二 夫	〃	〃	〃	〃	特殊製鋼(株)	
前 田 昭 五 等	〃	山 西 木 武 博	〃	〃	〃	〃	〃	
諸 限 源 隆	山陽特殊製鋼	青 木 武 司	〃	〃	〃	〃	日立造船(株)	
阿 部 重 博	〃	稻 垣 裕 裕	〃	〃	〃	〃	高砂鉄工(株)志村製造所	
大 須 賀 信 男	〃	市 川 和 男	〃	〃	〃	〃	昭和電工(株)秩父工場	
高 瀬 政 弘	〃	梅 沢 重 春	〃	〃	〃	〃	(株)不二越	
森 政 弘	〃	奥 田 隆 治	〃	〃	〃	〃	日立金属工業(株)安来工場	

門脇東一 日立化成工業(株)松戸工場
 国友源了 日本鋳物工業会
 栗原敏暢 三菱電機(株)福山製作所
 小向公平 ひつ製鉄(株)建設事務所
 佐合修 大同製鋼(株)中央研究所
 周東秀樹 中部鋼板(株)第一製鋼工場
 高月春之助 (株)新興機械工業製作所
 武田登 日本高級金属(株)
 根本弘 東都製鋼(株)

野水武俊 明治鋳業(株)
 橋本昌浩 住友特殊金属(株)
 原野紀久 (株)神戸製鋼所, 長府北工場
 平田勇夫 三菱造船(株)研究部
 広瀬議 広瀬鋳製作所
 武藤茂章 (株)鉄興社, 小野新町工場
 山岡達夫 日曹製鋼(株)富山工場
 山崎正博 東京鉄鋼(株)
 渡辺亨 富士製鉄(株)中央研究所

(特許記事 1851 ページよりつづく)

中断面, 小断面, 線条材および帯材連用圧延機設備の改良

特公・昭38—303 (公告・昭38—1—25) 出願: 昭30—1—11, 優先権: 1951—1—13 (スウェーデン国), 発明: スベン・エリク・マルテ・ノルリンド, 出願: モルガアドシャムアスメク・フェルクスタツズ・アクチボラグ

金属帯溶接線

特公・昭38—304 (公告・昭38—1—25) 出願: 昭36—5—31, 優先権: 1960—5—31 (イギリス国), 発明: アラン・ゴードン・トムキンス, 出願: ザ・ブリティッシュ・オキシゲン・コンパニー・リミテッド

フレキシブルチューブ製造機における自動捲取装置

特公・昭38—305 (公告・昭38—1—25) 出願: 昭36—7—3, 出願: 今西好一

多スタンド式ユニバーサルまたはパイプ絞り用圧延機

特公・昭38—306 (公告・昭38—1—25) 出願: 昭37—3—23, 優先権: 1961—3—27 (ドイツ国), 発明: ウアルター・フォン・ドルフ, オットー・ゲルハルデス, 出願: マンネスマン・メールアクチェンゲゼルシャフト

電気抵抗溶接鋼管製造装置におけるシームガイド

特公・昭38—307 (公告・昭38—1—25) 出願: 昭36—6—8, 発明: 吉田博敬, 松浦英明, 出願: 富士三機鋼管株式会社

螺旋状溶接縫合によるパイプの製造機械

特公・昭38—308 (公告・昭38—1—25) 出願: 昭34—4—2, 優先権: 1958—8—2 (ドイツ国), 出願発明:アレキサンダー・キューケンス

長尺鋼材彎曲装置

特公・昭38—309 (公告・昭38—1—25) 出願: 昭36—2—13, 発明: 愛智猛生, 出願: 九州鉄道機器製造株式会社

ベンディングローラー

特公・昭38—310 (公告・昭38—1—25) 出願: 昭36—2—20, 出願発明: 河田好史

リッチ型パイプレンチにおける鍛造製主杆支持枠の穿孔法

特公・昭38—311 (公告・昭38—1—25) 出願: 昭36—1—22, 発明: 川上清一, 出願: 東邦工機株式会社

火薬の爆発力を利用する板の成形加工法

特公・昭38—312 (公告・昭38—1—25) 出願: 昭36—1—11, 発明: 平山明, 井上稔, 関泉, 中村清, 桜井武尚, 原田稔, 出願: 日本油脂株式会社

爆発力を利用した成形加工法

特公・昭38—313 (公告・昭38—1—25) 出願: 昭36—2—17, 発明: 植田忠七, 中村清, 桜井武尚, 出願: 日本油脂株式会社

ころがり軸受の内外輪を製造する方法

特公・昭38—315 (公告・昭38—1—25) 出願: 昭36—2—13, 出願発明: 島野敬三

強度大なる焼結鋳を得る粉鋳石の焼結法

特公・昭38—601 (公告・昭38—1—31) 出願: 昭35—6—20, 発明: 沢村靖昌, 出願: 八幡製鉄株式会社

耐薬品耐蝕性鋼材

特公・昭38—606 (公告・昭38—1—31) 出願: 昭35—11—5, 発明: 山形幸蔵, 桐山幸夫, 出願: 株式会社日本製鋼所

結晶組織を有する永久磁石の製造方法

特公・昭38—607 (公告・昭38—1—31) 出願: 昭35—10—8, 発明: 小牧定一, 目黒晋, 鈴木正二, 出願: 東京磁石株式会社

1方向異方性電気鉄板の製造方法

特公・昭38—608 (公告・昭38—1—31) 出願: 昭35—8—2, 発明: 真殿統, 名馬和孝, 出願: 理研ピストンリング工業株式会社

鉄アルミニウム合金の熱処理方法

特公・昭38—609 (公告・昭38—3—31) 出願: 昭35—8—5, 発明: 松岡哲郎, 磯村滋宏, 徳島忠夫, 小野寺邦夫, 執印智司, 出願: 日本楽器製造株式会社

軟質磁性鉄板の表面に耐熱性電気絶縁皮膜を形成する方法

特公・昭38—611 (公告・昭38—1—31) 出願: 昭35—8—16, 発明: 古川甫, 出願: 理研ピストンリング工業株式会社

爆発力を利用する成形方法

特公・昭38—614 (公告・昭38—1—31) 出願: 昭36—2—2, 発明: 平山明, 関泉, 桜井武尚, 出願: 日本油脂株式会社

精密歯車鍛造用型の製造法

特公・昭38—615 (公告・昭38—1—31) 出願: 昭28—12—28, 出願発明: 中堂保治郎

金属型材の伸延方法および装置

特公・昭38—616 (公告・昭38—1—31) 出願: 昭35—10—10, 優先権: 1960—9—10 (ドイツ国), 出願発明: ヨアヒム・プファイファー